

島根県芸術文化センターは地方都市の可能性を示しています。

(島根県益田市)

島根県芸術文化センター長 **澄川 喜一**



プロフィール

1931年島根県生まれ。東京藝術大学専攻科を修了後、東京藝術大学教授、学長を経て、名誉教授。東京スカイツリー®のデザイン監修も担当。日本芸術院会員。

Q 島根県芸術文化センター（グラントワ）はまもなく開館7周年を迎えます。

澄川：グラントワは県立石見美術館と県立いわみ芸術劇場が一体となった複合施設で、県西部の「芸術基地」としての役割を担っています。ちなみにグラントワとはフランス語で大きな屋根を意味しています。

2005年10月に開館し、これまでに250万人のお客さまを迎えました。開館後ほぼ7年で250万人の入館者数を記録したことには大きな意味があります。というのも、グラントワがある益田市は県西部（石見）の中核的な都市ですが、市の人口は約5万人です。グラントワの利用促進協議会に加盟している津和野町、吉賀町を加えても約6万6,000人、さらに隣接する浜田市、萩市（山口県）、安芸太田町（広島県）を加えても約18万6,000人です。一般的に美術館などを運営するためには30万人の後背地人口が必要だと言われていますが、その6割程度の人口しか擁しない地域においてもきちんと芸術文化活動を展開できることは全国的に注目すべきことです。地方都市における芸術文化活動の可能性を示していると思います。その点は美術館等の関係者からも高く評価され、全国でもトップクラスの美術館に挙げられています。

Q 交通アクセスも含めて厳しい条件の中で集客力を高められた要因としては何が挙げられますか。

澄川：まず学芸員の頑張りです。津和野町出身の森鷗外ゆかりの美術、石見ゆかりの美術、ファッションを基本コンセプトとする石見美術館は毎年度4本の企画展を開催しており、

今年度は「鍋木清方と明治・大正・昭和の美人画」（6月上旬に終了）「巨匠たちの英国水彩画展」「東京藝大美術館所蔵・日本近代美術の名品展」「ヨーロッパの近代美術」を開催します。この展示を企画担当しているのが学芸員ですが、石見美術館には5名しかいません。これだけの少人数で、情報収集のためのアンテナを高く上げながら、企画から広報、図録の制作、作品の運搬などの作業を行っており、その頑張りには頭が下がります。しかも企画展の内容も非常に充実しており、全国的に注目された展示もたくさんあります。また、内容が充実していれば入館者も増え、多くのお客さまに感動を与えることができます。これは非常に大切なことで、石見美術館では連続9回入館者目標を達成しています。

Q いわみ芸術劇場でも多彩な事業を展開しています。

澄川：芸術劇場には世界的な指揮者である小澤征爾氏も絶賛した大ホール（1,500席）と、舞台と客席との一体感が楽しめる小ホール（400席）があり、オペラやバレエ、ミュージカル、コンサート、映画といった多彩な演目を楽しめます。また優れた舞台芸術の鑑賞だけでなく、地元で伝わる県指定無形民俗文化財の益田糸操り人形の定期公演や、地元の子どもたちによるミュージカルの上演といった、地域の人たちが幅広い文化活動を楽しむ場も提供しています。特に人材育成には力を注いでお

り、「いわみ舞台塾」「キッズ塾」では地元が輩出した世界的、日本トップクラスの芸術家が指導者となり、地元の人たちが邦楽や合唱、吹奏楽などの練習を重ね、邦楽演奏会や合唱祭、ジャズフェスタ、ミュージカルの舞台に立っています。その成果として、すでにフランチャイズ団体としてグラントワ合唱団、島根邦楽集団、グラントワ弦楽合奏団、グラントワ・ユース・コールの4団体が誕生しています。

Q 市民によるボランティア活動も活発ですね。

澄川：これも集客の大きな要因になっています。現在ボランティアの会には約140名の市民が参加し、フロントスタッフや劇場ワークショップ、広報誌の発送などで活躍しています。ボランティアの活動には生け花もあり、毎日エントランスやトイレなどを生け花で飾ってくれています。これは来館者からは非常に好評で、グラントワの評価を高めています。また、毎週日曜日の夜には石見地方に伝わる伝統芸能の石見神楽を上演し、多くの鑑賞者を集めています。こうした市民との関係を重視することで、より親しまれる文化施設にしていきたいと思います。

Q 今後の展望をお聞かせください。

澄川：重要なのは企画内容を充実させることだと思います。と同時に、周辺美術館との連携や観光振興への貢献も大切なテーマだと思っています。周辺には浜田市こども美術館をはじめとした美術館がいくつもあり、そうした美術館と連携することで、芸術をゆっくり楽しめる地域の魅力をアピールしたいと思います。また、今年の12月には岩国錦帯橋空港が開港しますので、そこを利用する人たちにもグラントワを楽しんでもらうように広報活動や誘客活動に力を入れたいと思います。

インタビュー・構成：
城市創（株式会社ジェイクリエイト）